2019年度 第18回講演会　記録

日　　時	2020年1月25日（土）１３時～１６時
会　　場	此花会館梅香殿
講　　師	ＮＰＯ法人ガイア・イニシアティブ代表　野中ともよ　先生
演　　題	ガイアの思想と実践
備　　考	参加者数　176名（聴講2名含む）　　記録　藤原雄平

はじめに

【田中 克 先生】

野中先生との出会いは小田原での森里海のつながりを考えるシンポジウムでした。以前、小田原沖の定置網で大量（６０万匹尾）に捕れたブリが数百尾にまで激減してしまいました。この原因として多くの水産海洋研究者は海流が変わったからと説明していましたが、現場で３０年以上にわたって調査を続けてこられた神奈川県水産試験場の研究者の実感はそれとは異なるものでした。真の原因は陸と海の繋がりが人の手で分断され続けてきたことによるのではないかとシンポジウムでお話ししたところ、野中先生に森里海連環学へ関心を持っていただきました。

ニュージーランドの先住民マオリや、ロシアアムール川流域のウスリータイガに暮らす先住民ウデへの、自然への崇敬や文化に見られる「大地が母」という価値観を大切にしないと、地球はこの10年で取り返しのつかない事態に陥ってしまいます。でも、シニアの皆さんが頑張れば、地球を救うことは可能です。
今日はそのようなお話をしていただけることをとても楽しみにしています。

【野中ともよ先生】

田中先生から「森里海の連環に関心をもっていただいた」と紹介されましたが、実際のところ関心どころではなく、私達人間はマザーアースに生かされている存在でしかない。ひたすらじねん（自然）には感謝の塊（笑）というのが私の若いころからの想いです。　地球の直径を仮に１ｍとすると空気の厚さはおよそ７ｍｍ、この７ｍｍの空間の中で私たちは生かされているのです。このことを科学的に理論づけ、「ガイア理論」として世界に提唱したのがイギリスのジェームス・ラブロック博士です。前半ではガイアの思想、後半にはその実践についてお話ししたいと思います。

世代別に日本の人口を見ると一番多いのは皆さんの世代で、皆さんがここまでに日本を成長させてきてくださった。一方、この数年を振り返ってみると、なんで日本はこんな国になってしまったのか？　と怒り、不安、怖れ、恐怖を覚えるのですが、しかしこのような感情だけで生きていると日本は沈没してしまいます。沈没しないためにここで発想を変える。で、まず毎日の生活の中で、横に繋がる仲間を３人つくる、良きことや学びをシェア出来る仲間です。それをミッションにしていただきたい。そのことは子、孫へと続く次の世代への責任でもあります。今日のお話のキーは、時間軸、空間軸、自分軸の３つです。各軸を量るときの中心は自分、価値を量るモノサシは自分自身であることをまず申し上げて本論に入ります

＜講演要旨＞

１．ガイアとは何か？

地球の英語「Earth」は「大地、地面」という意味ですが、1960～70 年代に「Gaia」という呼び方が登場します。「Earth」とどう違うか？「Gaia」は地面だけでなく、水、空気、そして地球に生きる生物をも含めた地球全体を指し、地球と生物が相互に関係し合い環境を作り上げている、地球を一つの「巨大な生命体」と見なす説です。

この星は生きていると考えるのが「ガイア理論」です。因みにガイアとは、ギリシャ神話に出てくる大地の女神の呼び名です。医学用語で「ホメオスタシス」とは「なるべく今の状態を維持しようとする働き」、「恒常性」ともいいますが、例えば人の場合、胃を切除して噴門とつなぐと１年もしないうちに胃袋のようなものができてきて、生きていく仕組みが再構築されると聞きます。地球自体にもそうした生きもののような「恒常性」の働きがあると考える思想をいいます。

２．ガイア理論

ガイア理論は、NASA に勤務していた大気学者で、英国王立協会会員のジェームス・ラブロック博士(右写真)が 1960 年代に提唱したもので、先程も申し上げたように、ギリシャ神話の女神「ガイア」にちなんだ名前を命名しています。その論旨は“地上の生命は単独のものはなく、すべて他の命と繋がっている”というものです。この相互作用には、何らかの「恒常性」が認められるというもので、次第に賛同者を増やし、また批判によって理論が鍛えられて緻密化し、さらに多くの賛同者を得、当初は否定的だった科学誌『Nature』もこの説を評価するまでになりました。現在では、基礎生態学上の研究の究極の目的である地球化学と同一の生態学のひとつとして論議されています。

私たちが生きるのに必要な酸素は植物の葉っぱがつくり、二酸化炭素を吸い込んでくれて光合成をし、食べ物を与えてくれます。この星は言ってみれば、森の星であり、樹木の星であり、海の星なのです。全てが繋がりあって生命が維持されているにも関わらず、この大切な役割を果たす森をどんどん伐採するは、二酸化炭素も排ガスもバカスカ排出するは、で、植物に言わせれば「もう嫌だ！」と悲鳴をあげていると思います。

ラブロック博士と最後にお話しさせていただいた時、もう 15 年以上前になりますが、「このまま行けば 10 年もたたないうちに気温が上がりパリでは死人が、アジアでは大洪水が起こってたくさんの死者が出るし、シベリアではツンドラが溶け・・・」とおっしゃっていましたが、まさにその通りになっていきました。ラブロック博士は地球からの避難先としての火星を考えるチームのメンバーでもいらっしゃいました。

いわゆる「環境問題」というと、生態系の危機、が思い浮かびますが、今やそれは経済の危機、社会の危機も含め、いわば、三つ巴に複雑に絡み合い、単純な解決方法はありません。例えば、全地球人が日本人と同レベルの生活をするには 2.3 個の地球が、アメリカ人と同レベルの生活をするには 4.5 個の地球が必要と言われています。つまり、水、空気、エネルギー、食料が無ければ生きていけないわけですが、このままでは皆がダメになる。これが分かっているのに、何故止められないのか、変えられないのでしょうか、全く不思議に思うところです。

先ほど、講師控え室でお茶をいただきましたが、接待の女性が「ペットボトルで済みません」と。でもこの意識が大切で、一人が変わっても大勢に関係なしではなく、一人から変わっていくことが大切なことだと思うのです。そんな考え方は、ナイーブで、とてもじゃないが「ビジネス」「経済活動」の世界じゃ通用しない、と言われてきましたが、いまでは「エココンシャス」（環境に適している）を企業理念に据えることなしでは「優良企業」と認識されない時代になりました。隔世の感がありますが（笑）。

じつは 15 年前にとても成功した事例があるので、紹介しておきたいと思います。

「エネループ」という充電池ですが、この電池は工場出荷後すぐに使えて、2 年経過しても 90%の電池量があり、繰り返し 1500 回以上使用できる優れものです。もう 15 年以上も前のことですが、『Think　Gaia』というヴィジョンを創り、これからは地球が抱える問題解決に資する商品を開発していこう！と。企業経営も単に儲かれば何でもあり、の時代は終わっていく、と考えての決断でした。家電メーカー会長就任就任第一号の商品でもありました。水を使わないで洗う洗濯機など、開発陣はいろいろと素晴らしい商品を世に出してくれました。リーマンショック以前のイケイケ金融時代でしたから「何が環境にイイだって？」　金融界から派遣された役員からはハナであしらわれましたが、でも世界中で大ヒット商品になりました（笑）。

私達は、どんな状況にあっても毎日を生きていかなくてはならない訳で、揶揄されたり、面白おかしく語られたり、などなど、あれこれあっても、大事なキーワードは「楽しくなければ人生じゃない」と考えてしまうことだと思います。楽しく考えながらやった方が、何事もうまくいく。細胞は元気よくはたらき、効率が２倍も３倍もあがります。同じものを食べても食べるときの環境や気持ちによって消化吸収率が違うことは、実験でも証明されています。「大好き」と思って食べるのと、「大嫌い」と思って食べるのでは大違い。お相手によっても、ですが（笑）。これもガイアの「いのちのお約束ごと」です。『自分軸』の作り方です。

３．人新世（じんしんせい）

さて、皆さんには初耳かも知れませんが、1950 年代以降の時代を「人新世＝じんしんせい」と称する考え方が提唱されはじめました。この地球の何万、何億年という単位で地層のできた順序を研究する学問、つまり、地質学の一部門ですが、最後の氷河期が終わる 1 万 5，6 千万年前から現在に至る時代を新生代第四紀「完新世」の時代と呼んできた。ところが現在すでに完新世は終わりを遂げて、新たな地質年代に突入していると考えるべきだ。つまり、私達 20 世紀の後半からの人間たちの営みは、かつての小惑星の衝突や火山の大噴火に匹敵するような大変化を地球に刻み込んでしまっている、ということなのです。その名は「Anthropocene」（アントロポセン）、人類の時代という意味で、まだ広辞苑に掲載のない新しいことばです。“われわれの活動が地球にいかなる影響を及ぼしているか”を自覚してもらうため、そして最悪の事態を避けるにはどうすればよいかを考えてもらうため、「人新世」という気の遠くなるような地質学変化を表わすほどの用語を世界への警告にしたいという動きです。

言い方を変えれば、私達の世代で、何か新しいやり方を「はじめる」か、何かを「やめるか」。その両方を覚悟して生き様を捉え直さない限り、この地球という星は、命あるもの対して、「万年」単位の変化をすでに始めている、ということです。『時間軸』の伸縮の柔軟に。

４．ローマクラブ

ローマクラブ（Club of Rome）は、スイスのヴィンタートゥールに本部を置く民間のシンクタンクで、ＭＩＴに研究を委託して 1972 年に出した第１回報告書『成長の限界』が世界的に注目されました。「人口増加や環境汚染などの現在の傾向が続けば、100 年以内に地球上の成長は限界に達する」と発表したのです。食料やエネルギーその他の資源の不足と環境汚染の深刻化によって、2100 年までに破局を迎えるので、成長を自主的に抑制して「均衡」を目指すべきという論旨です。ローマクラブは今も世界中の正会員は 100 名で、どういうわけか、日本人４名のなかの一人に私もいるのですが、元東大総長の小宮山さんはじめ、みなさん素晴らしいアカデミアの重鎮ばかり。これもやはり時代の変化かもしれません。フツーの人の視座も大切だ、と（笑）。

５．新しい日本力

そんな中で、私達の国日本を捉えてみる。まず大戦後の 1950 年代は、地球全体でアメリカを先頭に高度な資本主義経済が進みましたが、その急速な工業化が地球資源を漁り、地球全体を汚し始めたころに当たります。ここから今に続く現代日本の邁進です。価値のモノサシが人も、国の力もＧＤＰで比べる、すべからく、社会の価値をお金で計る時代になったわけです。2010 年当時の世界の国を GDP で層別し、その人口を見るとアメリカ３億人、日本１億人、アメリカ、日本を除く先進国 12 億人、BRIC s 29 億人（中国 13 億人、インド 12 億人、ブラジルとロシアで４億人）、次いで途上国 19 億人、最貧国８億人。そんな中で日本は世界で２番目に経済的な豊かさを享受してきました。皆さんの現役時代は物作り、先端技術、金融、教育などそれぞれの分野のリーダーとして活躍し、成功体験を持つ方が多くいらっしゃると思います。でも、昨今の 40 代、50 代の働き盛りの人たちの多くはうつ病に悩み、引きこもりとなり、若者の引きこもりより大きな社会問題になる時代です。皆様には信じられないと思いますが。

その上、今までの時代の繁栄の基礎となってきた石炭、石油などの化石燃料も、あと 100 年続くかといえば NO です。私達はそろそろお迎えが来てくださってもおかしくない世代ですが、お子さんやお孫さんの世代はこれからも長い人生を生きていかねばならないわけで、どうやって食べていくことができる国にしていくのか、いかなければならないぞ、と、舵切のすくなくとも準備くらいは、私達として、お迎えの前にしておかねばならないと考えるわけです。新しい日本力をどのように生み出していくかを真剣に考えなければなりません。

どれだけ時間があっても足りないくらい、さまざまな角度からの分析や考え方を共有させていただきたいと思うのですが、物凄く簡略化して（笑）、一言で表現すれば、日本にしかない伝統的文化と智恵に着眼すること。まずですね。そしてそれらの宝物に、独自の最先端技術をハイブリッドし再編集して、世界が必要としていくニーズやウオンツを満たしていくアルゴリズムを提供していく。そのベクトルで新しい日本力を生み出すことが可能だと思っています。

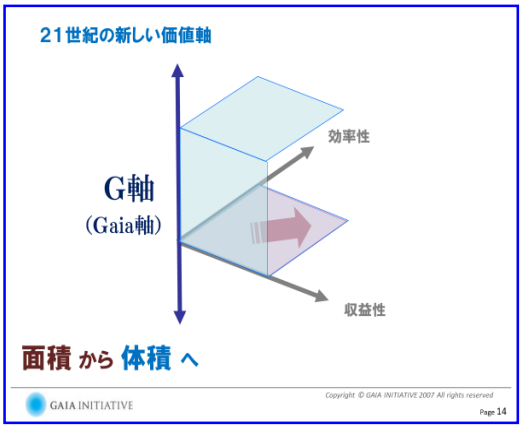
欧米人が個人主義的といわれるのとは対照的に、日本人は相手の立場を尊重し、組織のなかで上手に折り合いをつけ、生きていく力を備えています。また、日本には八百万の神といわれる多くの神様がいらっしゃって、西欧の一神教のように特定の神への信仰にこだわらず、正月は神社で、結婚式は教会で、葬式はお寺でというように状況に応じていろいろな神と触れ合う「いい加減さ」を持っています。日本人は決して無神論でもなく無宗教でもなく、日本ならではの「古神道」に近い生活習慣や伝統や文化を持っていると言っていい。

日本のように多くの神さまがいる多神教の世界は他者の受け入れに寛容ですが、一神教は不寛容なところもありますよね。あわせて近年欧米の若者は、キリスト教の聖書が説く世界の内容が、例えば宇宙創世の記述など、現実にあり得ないことだという点が取り上げられ、急速な宗教離れが進んでいるといわれています。ヨーロッパ世界では、自然との対峙の仕方をみると、例えば、暗い森は開発（Cultivate）の対象であり、そこを切り拓き、耕していくことこそ、悪霊を祓い開拓する人智のなせる「文明行為」であるとする長い歴史がありました。こうした捉え方に対し、日本では、深い森であっても、その懐に入ってしまう。そして見渡して、大きな岩にも樹々のなかにも、大いなる神の存在を感じ、皆で手を入れながら、実りへの感謝を捧げる祭りをしたり、そこを鎮守の森として心の拠り所にしてしまう。

最近でこそ欧米で多様性の大切さを言うようになってきましたが、日本では昔から当たり前のこととしてそこに生きる様々な「いのち」に思いを寄せて、認め合う、という多様性の根本的な生き方をしてきた民であった、と言えると思います。生きていることと同時に、いえ、それ以上の思いを込めて「感謝」する。守ってきた伝統や生活文化に気づくこと。これから地球を変えていくときに必要なことは「多様性」であり、そのお手本を示しながらリードすることができるのは私達の国、日本だと思うのです。

６．21 世紀の価値軸

20 世紀は企業の収益性を X 軸にとって、その効率性を Y 軸とする。その X と Y の面積、つまり収益部分が広ければ広いほど、企業の成功と考えられてきました。一方、公害（四日市ぜんそく、水俣病等）がおこり、水俣では人のいのちに大変危険な物質を大量に海に流しました。大企業であればあるほど（面積が広いほど）大きな被害を社会に与えることになりました。



企業は従業員数、売上げ高、株主数の多寡を誇るのではなく、いのちを大切にする企業でなければなりません。21 世紀に求められることは、２次元の広さの評価軸ではなく、いのちが喜ぶか、傷つくかという３次元のガイア軸、いのちの軸を Z 軸に据えて、企業や国の価値を考えなければいけない時代です。21 世紀の地球の作り直しには、いのちの軸を加え、面積から体積にモノサシを変えなければならないと考えています。

７．明治神宮の森

この森、東京だと思いますか？　1912（明治 45）年 7 月 30 日、明治天皇が崩御され、明治天皇を祀る神社が代々木に創建されることになり、江戸時代の大名屋敷を明治政府が買い取り、御料地にしたところです。そこへ、全国から若者たちが、10 万本以上のおらが国の自慢の苗木を運び、植樹をしたのです。
1920 年神宮鎮座祭が執り行われ、以来大切に育てられ、今年 2020 年で 100 周年になります。何もなかった台地が、いまでは立派な森になりました。なにもなかった荒れ地に 100 年という時の資本をかけると、こんな立派な森になるのです。
今からでもやれば変わる、やらなければ何も変わらないと思っています。

12 年前から、全世界でするイヴェントの、4 月第 3 週「アースデイ」東京と合わせて「アースデイいのちの森」をこの森で実行委員長として開催しています。この写真をみれば一目瞭然。

まるで「ノアの箱船」ではないですか？　直下型地震がきても、この森へくれば大丈夫！そんな気持ちにすらなってきます。

2015 年12 月には「明治神宮いのちの森いきもの図鑑プロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは、いのち育む森に生息するいきものを市民や次代を担う若者・子供などが撮影し、『いきもの図鑑』として発表します。また、制作のプロセスでは、市民団体やプロのカメラマンが定期的に観察・撮影するワークショップを行い、人々と森が接する機会を創出して環境意識を啓発していきます。今後、さらなる市民参加を呼びかけ、自然と繋がりが少なくなった都市化のなかの現代人に、いのちのつながりや自然環境への理解を促進し、子孫へと継承していきたいと考えています。

【休　憩】

８．諫早の植樹活動

さて、後半は、諫早、久米島、この二つの事例を引いて、これからの日本創りについても、お話を進めたいと思います。

生きているのは死ぬほど苦しいという言葉を聞いたこともありますが（笑)、まさに死んでしまったら、何も感じることはできません。生きていてこその人生です。この人生を豊かに生き抜くためのコツがあるとすれば、まず一番大切なことの一つは「感謝」だと思っています。

生きていることに感謝できるかどうか、これは最初の一歩で決まる。最初の一歩とは何か。日々自分をどう認識するか、自己認識『自分軸』、その中の「自分をどう捉えるか」にかかっている。悩んでいるときも、楽しんでいるときも、です。

私たちは（といっても皆さま方の世代の多くは）ザックリ振り返れば戦後、街も里も全てが焼け野原となり、何もないところでも、皆で力を合わせてやれば何とかなると信じて頑張り、今日の日本を作ってくださいました。90%以上の人々が、自分は「中流階級」だと認識する社会でしたね。例えば昨日行ってきましたが諫早湾。この地の歴史は日本の戦後の歩みの縮図、象徴みたいなものでした。命の恵みにあふれ、じねんの懐そのものの豊かさをたたえていた有明海の諫早湾。そこにダーンと造られた巨大な潮受け堤防。閉門するときの光景はギロチンに例えられる姿でした。諫早湾干拓事業といえば、反対派（漁民)・賛成派（農民)を作り対立させ、結局は土建屋さんがらみの一部だけがいい思いをさせてもらえる、というプロジェクト。日本各地の「列島改造論」の公共事業。お金の目盛りでしつらえた干拓事業は、村を分断し、家族、親戚をもお構いなしに 2 分して対立させてきたわけです。

でも、長い時間軸で捉えれば、私達は森の神様、海の神様に生かされてきた存在でしかありません。

日本各地で起きてきた様々な二項対立構造の最たるものを長崎に見たような気がしました。今のままでは山の神様も、川の神様も、海の神様も、そしてたくさんの生き物たちの「いのち」は悲しい思いでいっぱいではないかと思います。皆が幸せになる方法は何だろうと田中克先生たちは考え、森と海が歩み寄った植樹祭を行うことになり、その実現に向けて準備が進んでいます。本当に素晴らしいことで、100 年後の豊かな有明海をめざす植樹活動に大いに期待しています。

９．まだ間に合う

今、地球全体が病んでいます。日本も、アメリカもヨーロッパも同様に困っています。ローマクラブの会員として韓国に招かれたとき、日本で提案していることを紹介しました。それは、ソニー、パナソニック、ニコン、トヨタ等々、日本の企業はより良いものを作ろうと励んできたことです。

しかし、この 10 年間、神鋼やニッサン等多くの有名大企業がものづくりの規範を破り不祥事を起こしました。

より良いものをより安く、より多くと考え生産に励んできたが、過去のことになってしまったのです。
しかし、まだ間に合う。成長期の日本を背負ってきた私達が元気な間に、皆がアジアの伝統文化と最先端科学を再編集し直せば、
グローバルリーダーシップをとることは可能であると思っています。

１０．久米島のこと

ガイアの思想を実践した例として最後に久米島を紹介します。
久米島は周囲 23ｋｍの小さな島で、島民は８千人、毎年若者の流出を含め 100 人を超える人口減が起きています。島には世界初の最先端技術の海洋温度差発電所があります。冷たい深層水と暖かい海流水との温度差を利用して発電するもので、稼働している設備は世界中で久米島にしかありません。(右写真)

久米島には歴史的な背景から外部の人を受け入れやすい風土もあります。沖縄本島にある８種類の土壌の全てと強い風があります。ラムサール条約に認定された清流があります。固有種の久米島ホタルや二条城の松みたいな八枝松があります。

村長からどんな島にしたら良いかと相談があり、いろいろお話しを聞くと、久米島で実現出来れば一つの離島モデルとして、日本全体に拡げられる可能性が大きいとの思いに達し、私達の NPO で、コンペで島の総合計画（10 年間の計画）作成を担当。2030 年にどんな島にしたいのか。島民の希望や意見を聞いて設計図をつくろうと、農業 NGO でも働いた経験のある優秀な助成や、私のスタッフも島に移り住み、調査から始め、素晴らしい仕事をしてくれました。

再生可能エネルギー、フードセキュリティ、教育、食肉牛の日本トップ 5 に入る久米島牛、水素燃料（水素自動車他）、など、すべて「いのち」をキーワードにして繋がる活動で島を変えていく設計図を描きました。

設計図を作ると何かが動きだし未来に繋がっていきます。このことを久米島から学ぶことが出来ました。島には、幸いにも高等教育の高校がある。離島にとって若者の離島阻止には大きいのですが、その普通科と園芸科農地、園芸科を廃止する計画が持ち上がりました。とんでもないことです！　これからは、いのちを支える「農業」の方が、普通科より大事にすらなる時代です。

これに反対して沖縄県知事に直談判しました。大阪、東京で久米島高校をロードショウＰＲもしたら、生徒数が増え、今では寄宿舎も整備され、園芸科も残ることになりました。こういう久米島にぜひ行ってみて下さい。

１１．私達が変われば地球を変えられる

ローマクラブの最新のレポートで、地球の写真に添えて、「私たちが変われば変えられる、ここがたった一つの我が家なのだから」と付記しました。
コップの水が表面張力一杯に溢れ、もう一滴でこぼれる限界状況です。
私達の世代まではかろうじて維持できても、次の世代まではもうもたないので
これからの世界は GDP を競うことではなく、お金が幸福の目盛ではもうありません。スエーデンの 15 才の少女グレタ・トゥーンベリさん（右写真）は地球温暖化を何とかしたいと一人で行動を起こしました。これはグレタさん一人に任せておけばいいことではありません。それが正しい。私もそう思う。と思ったら、私たち一人ひとりも、この意識を行動に移していけばよいのです。私達も一人ひとりこの意識をもって行動すべきときなのです。

終わりに、マザーテレサ(右写真)の言葉を紹介します。

考え方に気を付けなさい、それはいつか言葉になるから。
言葉に気を付けなさい、それはいつか行動になるから。
行動に気を付けなさい、それはいつか習慣になるから。
習慣に気を付けなさい、それはいつか性格になるから。
性格に気を付けなさい、それはいつか運命になるから。

小さなこと、小さな思いが地球の運命を変えられる。私一人が変わると世界が変わる。一人から始めてみんなが繋がる。逆に言えば、一人が始めなければ、なにも変わらない。
シニア自然大学校も一人が始めて皆でつながる、生きているのでなく、生かされているんだということを伝えていける、そんな学校であることを期待しています。　ご清聴ありがとうございました。

【Ｑ＆Ａ】

Ｑ１：21 世紀は面積から体積へというお話があったが、それを測るモノサシは何ですか？

Ａ１：一言でいえば「感覚」、「感性」、「直観」。今日の皆さんに当てはめれば、これは孫の「いのち」が喜ぶかどうか？それを問うてみること。どう感じたか？というご自分自身の考えです。いのちの軸は数値化できない。例えば愛の定量化は出来ないのと同じです。この学校からみんなが何か良いことをしようねという発露の仕掛人になっていただければ幸いです。

【田中先生：コメント】

質問のある人は 4 月 22 日のアースデー前後に明治神宮百年の森で行われます「いのちの森プロジェクト」に参加されたらいくらでも質問に答えていただける思います。皆さん、どうぞ参加してください。。

野中先生の今日のお話で、私が自然学講座でコーディネーターを 3 年から 5 年、そして 7 年と延長してきた理由のかなりの部分を代弁していただいた気がします。何度も話してきましたように、皆が一寸ずつでも前向きに行動していかないと地球はダメになってしまう。海に暮らして森を思い、森に暮らして海を思う、そしてその間の大切さに思いを馳せる。畠山重篤さん、椎葉勝さんのように行動しないと何も事は前に進まないとの思いをさらに強くしました。でも、私はこれまで力量以上に“精一杯”背伸びしてきましたので、もはや伸びしろわずかです。が、皆さんにはたくさんのパワーが溜まっていると思います。

今日の話はそのことについての極め付きの話、そうすれば未来があるという話でした。近い将来、自然学講座自然観察会の行き先は久米島で決定になりましたね（笑)。

以上